

タイトル：黒河峠

黒河峠は、摩尼山と楊柳山という聖山の間にある、高野山を奈良県とつなぐ2つの歴史的な参道の1つです。もう1つの子継峠は、楊柳山を経ての反対側、道沿いに1.4km先に行ったところにあります。奈良から女人道への山道はもう使われていませんが、かつては往来の多い道でした。巡礼者が通る他にも、高野山と和歌山の他の場所との間で、人や物資を運ぶために使われていました。

黒河峠の小さな木造の祠にはお地蔵があります。地蔵とは、元はクシティガルバというサンスクリット語の名前で知られており、旅人、子ども、苦悩する者、死者の魂の守護者、擁護者です。旅人を守るために、十字路にはよく地蔵が置かれ、旅人は立ち止まり、この道端の神社にお供え物やお参りをするのが習慣でした。

目印の「一本杉」にある十字路への近道は、この場所で女人道から分岐しています。所々、高野山から木村を搬出する為の線路(森林鉄道)と、山道が近くに平行になっています。1960年代頃に、この鉄道は廃線になりましたが、山道沿いの線路が今でもそこそこに見られます。